

I. 受託事業・教育事業報告

1. 松本大学×道の駅「中条」×国土交通省 連携企画

松本大学総合経営学部による道の駅「中条」を拠点とした地域活性化 —88(やまんば)プロジェクト2017—

総合経営学部総合経営学科 清水 聡子

(1) はじめに

松本大学と道の駅「中条(なかじょう)」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始した。連携企画の実施にあたり、道の駅「中条」の運営を担う指定管理者であるアクティオ株式会社と本学は事業連携・推進に関する協定を締結し、2015年7月7日に記者会見を行った。松本大学総合経営学部では国土交通省の推進する「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めている。

1995(平成7)年に登録された道の駅「中条」は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。道の駅「中条」のある旧中条村は2010(平成22)年1月に長野市、信州新町、中条村の1市1町1村で合併し、長野市中条となった。旧中条村は山姥伝説の里として知られている。

松本大学総合経営学部の学生は山姥が「子育ての神様」として住民から大変慕われていることに着目し、山姥伝説を中条地域の大切なお宝として捉え、「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条を応援します!として、「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げた。これは山姥(やまんば)の「や」と「ば」を数字の8で表現したら面白い!と学生の柔らかい発想から生み出された。長野市中条地域の活性化に向けて①「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条のお宝探し、②中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力を実施している。

3年目となる2017年度も協定に基づき、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的として活動を続けている。本稿では、2017年度の88プロジェクトの活動を報告する。

(2) 2017年度キックオフ・ミーティング

2017年5月22日(月)、88プロジェクトのキックオフ・ミーティングを総合経営学部の学生が企画した。道の駅「中条」の運営を担う指定管理者アクティオ株式会社岡部禎之常務取締役、植山貴司東日本営

業部次長、下内光雄道の駅「中条」施設長、小川博史道の駅「中条」副施設長、さらに国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課谷部哲男専門官の5名にご出席いただいた。また本学教職員7名(増尾均総合経営学部長、矢崎久総合経営学科長、小林俊一総合経営学科教授、成政政総合経営学科教授、室谷心総合経営学科教授、清水聡子総合経営学科教授、赤羽雄次管理課長)も参加し、2017年度88プロジェクトはスタートした。

国土交通省の谷部専門官、アクティオ株式会社岡部常務取締役よりご挨拶を頂戴し、総合経営学科清水ゼミ4年生の藤原裕太さんが2016年度の88プロジェクトの成果報告を行った。また下内道の駅「中条」施設長より参加者全員へ道の駅「中条」の人気商品である「西山大豆豆乳ドーナツ」と「西山大豆クッキー」を頂戴した。

2017年度は新たに、学生からスタンプラリーの提案があった。また88プロジェクトファームでの西山大豆の種まき、収穫、商品化という6次産業化の検討、「むしくらまつり」の連携・協力を行っていくことを話し合った。

学生はアイデアを生み出す作業を一から体験する。道の駅「中条」の皆様と一緒にアイデアを育て、楽しみを見いだすことであろう。88プロジェクトの活動によって、地域活性化の花が咲き、果実の収穫を地域の皆様と共に喜ぶことができればと考えている。



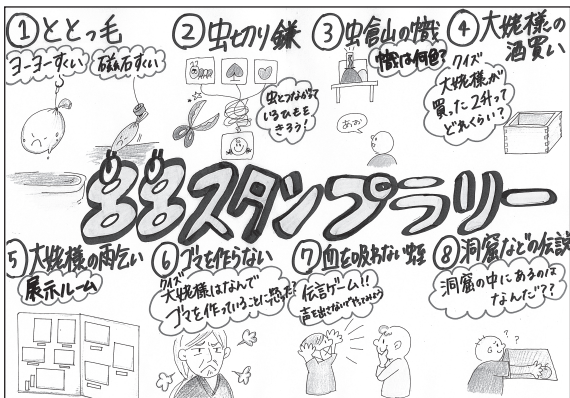
総合経営学科清水ゼミ4年生、藤原裕太さんによる
2016年度の成果報告



下内光雄道の駅「中条」施設長より
「西山大豆豆乳ドーナツ」の説明



88プロジェクトファームでの
6次産業化の検討とスタンプラリーの提案



総合経営学科清水ゼミ3年、
多田春菜さんの88スタンプラリー原案

(3) アウトキャンパス・スタディによる現地調査

2017年6月18日(日)、総合経営学科清水ゼミ3・4年生9名と清水の計10名は、道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを行った。昨年度は笹おやきの新しいパッケージを考案し、むしくらまつりにおいて1,000個販売した。

今年度の新メンバーが加入し、道の駅「中条」の壇原さだ子さんにご指導をいただきながら、笹おやきづくりを体験した。生地が柔らかくおやきをきれ

いに丸めるためには熟練の技が必要で、悪戦苦闘しながらも、おやきの新しい形の模索や自分で作ったおやきを自分で食べる仕組み“体験型商品”として、学生はアイデアを広げた。

次に、3年生の多田春菜さんのアイデア、10月22日(日)実施のスタンプラリー会場となる「ろくちゃんの森」を見学した。野イチゴやフキが自生する自然豊かな森の中で、どのようにスタンプラリーを実施することができるか、学生はイメージを膨らませた。

お昼は道の駅「中条」の名物料理、おぶっこと筍の煮物、自ら作った笹おやきを頂戴した。道の駅「中条」の温かさが伝わる料理だ。

昼食後、88プロジェクトファームにて営農責任者の藤本人寿道の駅「中条」副施設長の指導のもと、西山大豆「ナカセンナリ」の種まきを行った。種まきから収穫、商品化と6次産業化に取り組んでいる。

種まき後、3年生の松崎連さんのアイデアが形になった豆乳スープを試食した。彩りや具材の大きさ、とろみの加減などアイデアを出しながら、11月3日(金)に道の駅「中条」で行われる「むしくらまつり」にてふるまうことが決定した。

下内光雄道の駅「中条」施設長、高橋さつき道の駅「中条」副施設長を中心とした道の駅「中条」の皆様のお蔭で、実り豊かなアウトキャンパス・スタディとなった。

学生は自分たちのアイデアが形となることを大いに楽しんでいる。道の駅「中条」の皆様と一緒にアイデアを育て、88プロジェクトの活動によって、地域活性化の花を咲かせていきたい。



道の駅「中条」の壇原さだ子さんの指導で
笹おやきづくりを体験



スタンプラリー会場となる
「ろくちゃんの森」の見学



88プロジェクトファームで
西山大豆「ナカセンナリ」の種まき



88プロジェクトファームで全体写真

(4) 学生発案のスタンプラリー実施

2017年10月22日(日)、総合経営学科清水ゼミの学生6名と、教育指導入門の授業を受講している学生5名(総合経営学科1名、観光ホスピタリティ学科4名)、総合経営学科室谷心教授、清水、計13名で長野市道の駅「中条」でスタンプラリーを実施した。

スタンプラリーを発案、企画し、総責任者として

活躍した清水ゼミ3年生多田春菜さんの原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 多田 春菜
今回、道の駅「中条」の裏にある「ろくちゃんの森」を使ったスタンプラリーを企画し、実施しました。当日は台風の影響もあり、雨が降って外での実施ができなかったため、スタンプラリーは「ろくちゃんの森」を使わず、道の駅「中条」の室内(多目的ホール、階段、店内)を使って行いました。スタンプラリーは8か所にクイズを設置し、回答して順番に回ってもらうようにしました。クイズ内容は長野市中条にまつわる山姥伝説やイベントについて出題しました。「知っている」「難しい」と親子で対話を交えながらスタンプラリーをしてもらうことができました。

スタンプラリーのあとは自然を使った遊びの提供として「笹舟づくり」「縄跳び遊び」「草笛」「靴飛ばし」「背中文字伝言ゲーム」をイベント広場のステージで行いました。「靴飛ばし」では、スリッパを飛ばした距離を競いました。子どもだけでなく保護者の方にも参加していただき、盛り上がりました。1位は小学校低学年の女の子で11m60cmの記録でした。1位には道の駅「中条」の名物、「西山大豆豆乳ドーナツ」5個、2位には3個、3位には2個、参加賞として全員に1個ずつプレゼントしていただきました。笹舟づくりでは苦戦しながらも楽しんで作っている姿を見ることができました。作った笹舟を小川に流す体験も行い、雨の中でしたが怪我もなく無事に終えることができました。

昼食は道の駅「中条」の皆様からふるまっていただきました。野沢菜を使ったおにぎり、山賊からあげ、サラダ、キノコ汁、おからドッグを参加者と一緒いただきました。2015年、清水ゼミの先輩が考案した「西山大豆おからドッグ」は改良され、11月3日(金)に道の駅「中条」で行われる「むしくらまつり」で販売されます。味やサイズ、値段の確認も行いました。また、普段なかなかできたてを食べる機会がない焼き芋を屋台で提供していただきました。

スタンプラリーには4家族、計13名の参加があり、感想を聞くと「スタンプラリーが楽しみで来た」「親子ともに楽しめた」とうれしい言葉を聞くことができました。一緒に活動した清水ゼミの学生からは「子どもにあった内容の遊びやクイズを考えるのが難しかった」「子どもたちが笑って帰ってくれてよかった」「雨だったがスムーズに行えてよかった」という

感想がありました。

今回「ろくちゃんの森スタンプラリー」の提案から実施まで携わらせてもらうことができ、大変多くのことを勉強することができました。準備をいただいた道の駅「中条」の皆様、ありがとうございました。次は11月3日（金）に道の駅「中条」で行われる「むしくらまつり」です。道の駅「中条」の皆様と連携をとり、よりよい活動に発展させていきたいです。



道の駅「中条」の多目的ホールでの
スタンプラリーの様子



道の駅「中条」のステージで行われた
「笹舟づくり」の様子



道の駅「中条」のステージで行われた
「縄跳び遊び」の様子



道の駅「中条」のステージで行われた
「靴飛ばし」の様子

(5) 長野市中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

2017年11月3日（金）、総合経営学科清水ゼミ、成ゼミ、小林ゼミの学生11名、総合経営学科矢崎久学科長、成者政教授、清水の計14名は道の駅「中条」で行われた「むしくらまつり」に参加した。

第11回「むしくらまつり」は雲ひとつない晴天で虫倉山を眺めることができ、約5,000名のお客様が道の駅「中条」へ来場された。豆乳スープのふるまいを提案した清水ゼミ3年生松崎蓮さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 松崎 蓮
松本大学総合経営学部88プロジェクトでは、道の駅「中条」で行われた長野市中条地域最大「むしくらまつり」に参加しました。

- ・西山大豆おからドッグ200個販売（2015年清水ゼミ生が考案したものを改良）
- ・提案した豆乳スープのふるまい
- ・松本大学のブースで大学のPR
- ・6月18日、88プロジェクトファームに種まきした西山大豆「ナカセンナリ」の視察を行いました。

西山大豆おからドッグは食べやすい大きさにして、購入しやすいように1個100円で販売しました。お客様への声かけの仕方や商品の陳列、売り歩きなど、学生が自発的に売るための方法を考えて行動し、無事に完売することができました。

豆乳スープも多くのお客様にふるまいました。午前中は特に気温が低く寒かったため、ふるまったお客様には喜んでいただくことができました。

当初、収穫する予定であった西山大豆「ナカセンナリ」は時期が少し早く、収穫することができませ

んでした。しかし自分たちで種まきした西山大豆が台風や大雨にも耐え、まもなく収穫できることを嬉しく思います。

道の駅「中条」の皆様には、販売・ふるまい用の西山大豆おからドッグと豆乳スープ、学生がデザインした88プロジェクトスタッフジャンパー、美味しいお弁当等をご準備いただきました。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

今回のアウトキャンパス・スタディに参加した学生からは、「漠然と声がけするのではなく、ピンポイントのお客様に絞って声がけをすると効果的だった」「向かいのお店の人が自分たちのおからドッグの宣伝をしてくれて、中条地域の人のあたたかさを感じた」といった感想や、「豆乳スープが好評であったため、商品として販売できたのではない」「若者をターゲットとする活動が少なかった」という意見があがりました。

豆乳スープの提案・ふるまいに携わらせていただき、商品開発の難しさや楽しさを知ることができました。「美味しい」「こんな豆乳の飲み方初めて」などと笑顔で感想を伝えに来てくれるお客様もいて感動しました。何度も投じた自分たちの意見を形にしようと工夫していただいた道の駅「中条」の皆様には大変感謝しております。ありがとうございます。今回の活動を踏まえて今後はより多くのお客様、特に若者を集客するための策を練り、道の駅「中条」をより賑わわせていきたいです。また、自分たちの活動にもつなげていきたいと考えています。引き続き応援よろしくお祈りします。



約5,000人の来場者でにぎわう「むしくらまつり」で「西山大豆おからドッグ」販売



総合経営学科清水ゼミ3年生、松崎蓮さんの提案「豆乳スープ」のふるまい



改良された「西山大豆おからドッグ」200個販売



西山大豆「ナカセンナリ」が実る
88プロジェクトファーム

(6) 道の駅「中条」をフィールドとした理論と実践の融合を目指して

2017年12月2日(土)、88(やまんば)プロジェクトの活動を行っている清水ゼミの3年生6名と清水、計7名は、カレッタ汐留の中にある「アド・ミュージアム東京」を見学した。

ピーター・ドラッカーに「マーケティングの原点は

日本の江戸にあり」といわしめた江戸時代から現代までの「ニッポン広告史」を30万点以上の資料の中から体感した。また地域活性化を考えている学生は広告学芸員の坂口由之先生からアイデアの生まれる過程を学んだ。清水ゼミ3年生中村大地さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 中村 大地
「アド・ミュージアム東京」は2017年12月1日（金）にリニューアルオープンしたばかりの日本で唯一の広告ミュージアムです。今回のアウトキャンパス・スタディの目的は11月3日（金）、道の駅「中条」で行われた長野市中条地域最大のお祭り「むしくらまつり」において、無料でふるまった学生考案の西山大豆豆乳スープの可能性について考えることです。広告学芸員の坂口由之先生に解説していただきながら、常設展示と企画展、ライブラリーを見学しました。

常設展示では日本で広告が盛んになった江戸時代からインターネットの登場した現代まで、広告がどのように変化したかを学ぶことができました。企画展では『「思いつく」を考える展』が開催されており、考えることの面白さや、実際にどう考えればアイデアが浮かぶか、その方法について学ぶことができました。ライブラリーには広告やマーケティングに関する書籍や情報が集められていました。

アド・ミュージアム東京を見学した学生は「広告を見るだけで時代の流れがよく分かった」「広告で自分たちの気持ちを表すだけでなく、相手にその商品のことを『伝えて』その商品を『好き』になってもらうことが重要」「アイデアを作り出すにはいろいろな角度から考えてみるのが大切と学んだ」「広告は独自性が必要」「広告は『粹』で『洒落（しゃれ）て』いる」と感想をまとめています。

今回のアウトキャンパス・スタディで、私たちは広告について学んだだけでなく、アイデアをどのように生み出すかについても学びました。この学習を活かして道の駅「中条」を拠点とした地域の発展に貢献していきたいです。



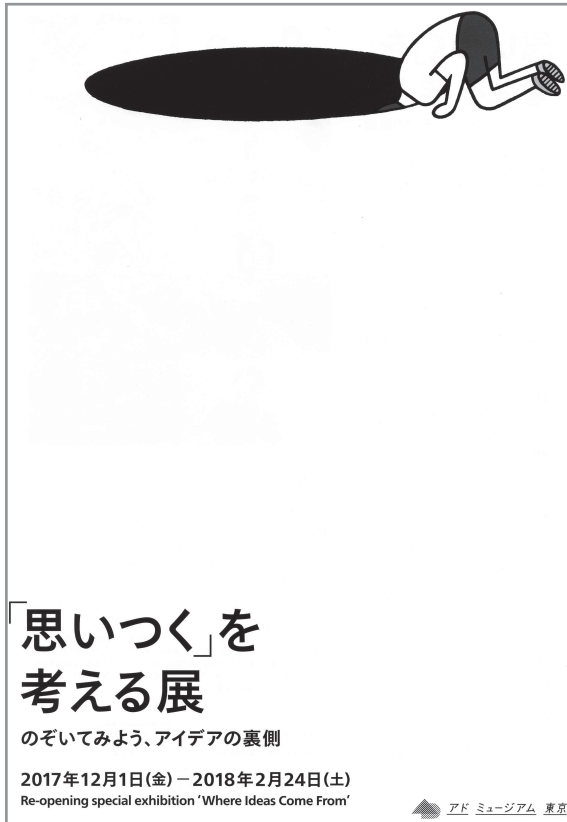
広告学芸員坂口由之先生による
「ニッポン広告史」の解説



デジタルコレクションテーブルで資料を見る学生



『「思いつく」を考える展』の本棚での写真



『「思いつく」を考える展』のポスター

(7) 「むしくらまつり」の活動に対する意見交換と今後の展開

2017年12月11日(月)、本学において「88プロジェクト」3年間の活動への意見交換と今後の展開についてミーティングを行った。長野市道の駅「中条」指定管理者であるアクティオ株式会社植山貴司東日本営業部次長、下内光雄道の駅「中条」施設長の2名にご出席いただき、増尾均総合経営学部長、矢崎久総合経営学科長、成者政総合経営学科教授、室谷心総合経営学科教授、清水が参加した。清水ゼミ3年生、金子沙也加さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 金子沙也加
3年間の88プロジェクトの総括や清水ゼミ4年生の卒業論文の経過報告、次年度目標についての意見交換が行われました。

まず、アクティオ株式会社植山貴司東日本営業部次長よりご挨拶を頂戴し、下内光雄道の駅「中条」施設長を中心に3年間の88プロジェクトの総括を行いました。

次に清水ゼミ4年生(小沢菜緒さん、藤原裕太さん、縣克典さん)が道の駅をテーマにした卒業論文、

「道の駅と防災 道の駅の新たな可能性」「パッケージデザインによるマーケティング効果」「道の駅中条を拠点とした地域活性化-地域特産物“西山大豆”から考える-」の経過報告をしました。

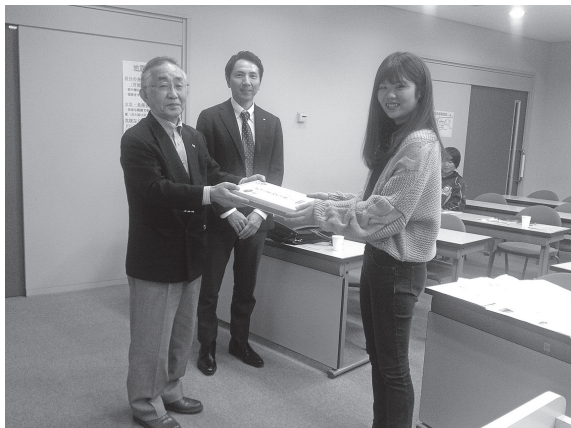
来年度の活動として、道の駅「中条」の裏にある「ろくちゃんの森」を使ったスタンプラリーは、自然に触れ楽しい時間を提供できることや道の駅「中条」を知ってもらえるきっかけになると考えられるため、今年度に引き続き次年度も行っていく方針です。また、「ろくちゃんの森」は来年10周年記念を迎えるため、「ろくちゃんの森」と隣の森を使った冒険的な体験ができるイベントを考えていこうと思っています。西山大豆豆乳スープはむしくらまつりにてふるまい、好評だったため店頭販売を考えました。しかし、販売するにあたり必要な許可を受けることは難しいとのことでした。そこで「ふるまい」として来春3月3日・4日開催予定である「西山大豆フェア」のメニューの可能性として提案していただきました。

道の駅「中条」の下内施設長をはじめ皆様には私たち学生のアイデアに対し、前向きに考えてくださることへ心より御礼申し上げます。

ミーティングに参加した学生からは、「自分たちの考え出したアイデアが道の駅「中条」の皆様力を借りて形となって良かった」「スタンプラリーでは、台風のため使えなかったろくちゃんの森をさらに有効活用できるイベントや活用方法を考えていきたい」「今後も物事にしっかりと気持ちを入れてやっていきたい」「『大人』のミーティングに参加でき、社会人になる前の有意義な体験ができた」という感想がありました。

今回、意見交換できたことは、来年度以降プラスに繋がっていくと思います。ミーティングを通し、学生の「むしくらまつり」に対する今後の方針について明確に見えてきたと感じます。

道の駅「中条」を多くの方に知ってもらうための情報発信では、地域をさらに元気にできるよう協力していきたいと考えております。また、現場の雰囲気味わいながら実体験できる環境に感謝の気持ちを忘れず、これからも活動していきたいです。



下内光雄道の駅「中条」施設長より
出席者全員へ「えごまクッキー」



道の駅「中条」指定管理者、アクティオ株式会社
植山貴司東日本営業部次長よりご挨拶



矢崎久総合経営学科長から3年間の総括

(8) 道の駅と大学連携成果発表交流会に参加して

2018年3月13日(火)、さいたま新都心合同庁舎にて、道の駅と大学連携成果発表交流会が開催され、総合経営学科清水ゼミ3年生の多田春菜さん、金子沙也加さん、松崎蓮さん、中村大地さん、平林侑恭さん、山根大輝さん、下内光雄道の駅「中条」施設長、道の駅「中条」指定管理者であるアクティ

オ株式会社植山貴司東日本営業部次長、増尾均総合経営学部長、室谷心総合経営学科教授、清水の計11名で道の駅と大学連携成果発表交流会に参加した。

松本大学×長野市道の駅「中条(なかじょう)」とのコラボレーション企画、「88(やまんば)プロジェクト」は山姥伝説を学び、学生発案のスタンプラリーを実施し、長野市中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力と、道の駅「中条」を拠点とした地域活性化に取り組んできた。山根大輝さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 山根 大輝

道の駅と大学連携成果発表交流会が開催され、11チームが成果発表しました。

1. 城西国際大学(道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携)
2. 長野大学(道の駅「あおき」との連携)
3. 松本大学(道の駅「中条」との連携)
4. 茨城大学(道の駅「常陸大宮」との連携)
5. いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム(道の駅「ひたちおおた」との連携)
6. 城西大学(道の駅「おがわまち」との連携)
7. 佐野日本大学短期大学(道の駅「どまんなかたぬま」との連携)
8. 跡見学園女子大学(道の駅「ハッ場」との連携)
9. 跡見学園女子大学(道の駅「もてぎ」との連携)
10. 淑徳大学(道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携)
11. 立教大学(道の駅「いちごの里よしみ」との連携)

松本大学は3番目の発表で、「松本大学×道の駅「中条」～88(やまんば)との歩み～」をテーマとして、長野市中条地域についての紹介、スタンプラリーの実施(2017年10月22日)、むしくらまつり(2017年11月3日)において、西山大豆豆乳スープのふるまい、西山大豆おからドッグの販売等、数多くの活動を報告しました。ゼミ生全員で役割を決め、旗を持つなど、わかりやすい発表を行うことができました。ステージ上をまるで88プロジェクトのブースに変えてしまったかのようでした。多田春菜さんは松本大学代表として意見交流を行いました。

下内光雄道の駅「中条」施設長と道の駅「中

条」の指定管理者であるアクティオ株式会社の植山貴司東日本営業部次長からトップレベルの内容と手法だったとお褒めの言葉と88プロジェクトファームから生まれた西山大豆クッキーを頂戴しました。

成果発表交流会に参加した清水ゼミ生に感想をまとめてもらいました。

- ・他大学の活動を知ることで、自分達の活動もまだまだ工夫できるところがあるのではないかと可能性が広がった。
- ・多くの人に自分達のやってきた活動報告をすることはとても緊張したが、めったにできない貴重な経験となった。
- ・今回の発表は多くの方の協力によって行うことができた。
- ・他大学の発表を聞いて道の駅を拠点とした地域活性化のために、自分達の活動に工夫や改善点があると感じました。また道の駅には伸びしろが豊富で、来年度の活動に対するモチベーションが上がりました。
- ・プレゼンテーションの練習を念入りに行ったため、大勢の前で自信を持って発表をすることができたので良かったです。

下内光雄道の駅「中条」施設長をはじめ、多くの方の協力があって、今年度の活動を行うことができました。活動に携わってくださった皆様に感謝いたします。



発表する松崎さん、多田さん、金子さん、中村さん、平林さん、山根さん



参加大学代表者による意見交流の様子



発表者6学生とポスター



下内光雄道の駅「中条」施設長、
アクティオ株式会社植山貴司次長、
増尾均総合経営学部長、室谷心教授と撮影

(9) むすびにかえて

「道の駅」は1993（平成5）年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っている。2018（平成30）年4月25日までに全国1,145駅が登録されている。長野県は50駅登録されており、全国第3位の「道の駅」登録数である。

松本大学と道の駅「中条」及び長野国道事務所は長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始し、旧中条村（長野市中条）地域の活性化に向けて、山姥伝説を地域の独自性や魅力を生み出す源泉として捉え、「88（やまんば）プロジェクト」を立ち上げた。

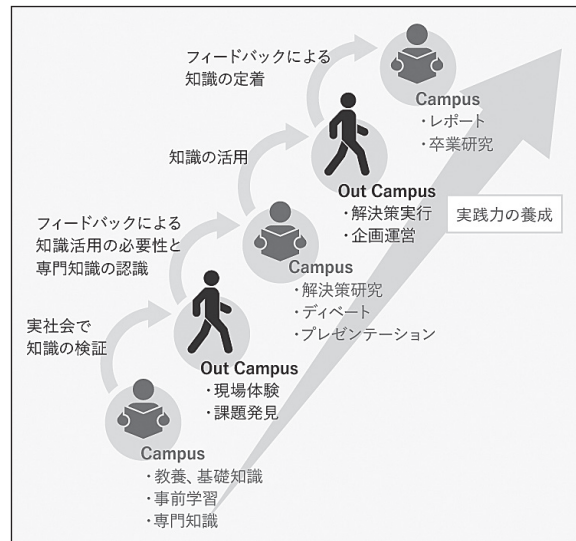
2017年度は88プロジェクト3年目の活動として、笹おやきづくりの体験、学生が提案したスタンプラリーの実施、88プロジェクトファームで西山大豆の種まきから商品化という6次産業化の検討、「むしくらまつり」の連携・協力を行った。長野市中条地域最大の「むしくらまつり」では、①西山大豆おからドッグ200個販売（2015年清水ゼミ生が考案したものを改良）、②今年度提案した豆乳スープのふるまい、③ブースで松本大学をPRした。またリニューアルした「アド・ミュージアム東京」を見学し、学生はプロモーションやプレゼンテーションについて学んだだけでなく、アイデアをどのように生み出すかについても学んだ。

道の駅と大学連携成果発表交流会では2017年度の88プロジェクトの成果を発表し、11チームの大学生と意見交換を行った。松本大学の学生として何ができるか、学生はゼロベースで考え、企画・立案し、道の駅「中条」の皆様と実施し、成果をプレゼンテーションすることができた。

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進している。地

（知）の拠点として、さらに地域に求められる“松本大学×道の駅中条”の取り組みにしていきたい。

最後に、アイデアを出し続け、力を注いだ学生の皆さんと、学生の思いに寄り添い、一緒に向き合ってくださった道の駅「中条」の皆様、中条地域の皆様、そして学習の場を提供してくださった国土交通省の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。道の駅「中条」へ「さあさ、よっとくらえ!」。今後とも応援をよろしく願いいたします。



資料：松本大学におけるアウトキャンパス・スタディの位置づけ

出所：松本大学 HP

(<https://www.matsumoto-u.ac.jp/research/outcampus/>)

2018年3月13日ポスター

道の駅「中条」

×

松本大学

私たちは...

長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」への参加をとおして地域活性化に取り組んでいます！

提案

88プロジェクトファームでの6次産業化の検討

スタンプラリーの提案

スタンプラリー会場となる「ろくちゃん森」を見学

88プロジェクトファームにて営農責任者の藤本人寿道の駅中条副施設長によるレクチャー

調査

実施

スタンプラリーを実施

長野市中条地域最大「むしくらまつり」に参加

国土交通省では、全国各地で、「道の駅」と大学との連携を実施しています。この取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育成や地方創生にも寄与が期待されているところです。